



花よめ3人(!)につかまえられた花むこさん(年長児)



いざごのあと、仲直りしてボール転がし(年長児)



教員研究紹介

クローズアップ

学校教育講座(幼年教育) 准教授 堀越 紀香 ほりこし のりか

子どもの観察をしています

今年4月に奈良教育大学へ赴任しました。幼年教育専修の所属です。私は学部生のころから、ビデオカメラを片手に幼稚園へ出かけて子どもの姿や保育者の援助を観察してきました。近年は幼稚園だけでなく、小学1年生の入学当初のようすも観察しています。

研究について説明するために、まずは年長男児の事例をご紹介します。

【事例】(5歳児12月) 2人で「痛いよー!」

K太が「M樹に蹴られた」と保育者を呼びに来る。保育者はK太と一緒にM樹のところへ行き、3人で話し合う。

保育者 「K太くんは蹴られたのが嫌だったんでしょ。」

K太 うなずく。

M樹 「でも、ぶつかっただけで……」

保育者 わざとではないと伝える。

2人の話を聞いたあと、「あとには2人で相談しなさい。あなたたち、仲良しなんだから」と2人に任せてその場を離れる。

K太・M樹 並んで座るが、顔を合わさずに無言のまま。

K太 小さな石を拾い、園庭に向かって思い切り投げると、K太の腕がM樹の後頭部にぶつかる。

M樹 驚いたようにK樹を見て、K太の頭をポカッと叩く。

K太 M樹をジッとにらむが、顔をそらす。

M樹 顔をそらす。少し表情がゆるむ。

K太・M樹 互いに顔をそらしていたが、互い

チヨウするふざげや、叩き合って怒鳴り合うふざげによって、いざごの緊迫した状況を緩和し、仲直りを成立させたのです。また、保育者が2人なら仲直りできると信じて任せたことも、K太とM樹が自分たちで何とか仲直りしようとする動機付けを高めたと考えられます。このように、仲間との関係性によって、いざごをどのように解決するかは異なります。時にはふざげて緊迫した状況を和らげ、仲直りを促すこともあるのです。幼児もなかなかやりますね！

子どもに惹かれる理由

私は、子どもが何か困難やよく分からないことに遭遇して、何とかやりくりしようとする姿(ふざげ行動)その一例です。試行錯誤しながら熱中し没頭している姿(知的行動)に惹かれます。また、近年私が小学1年生を観察するようになったのも、幼稚園・保育所から小学校への移行に伴って、子どもが小学校生活へ戸惑いながらも、何とか乗り越えようとしている姿を見ることができからです。今後は子どもを支える先生方の工夫や配慮も含めて検討したいと考えています。

メッセージ

将来子どもに携わりたい方には、是非「子どもをみる眼」を培ってほしいと願っています。子どもをみる眼とは、子どもの思いに共感しつつ、子どもの行動や言動全てをその子の表現と見なし、柔軟に理解しようとする眼(力)のことです。どうしてそのような行動をとるのか、その思いを見とるような心がけてください。「幼児と教育」「幼年教育学特講」などの授業を通して、少しでもお手伝いできればうれしいです。

この事例では、K太が「M樹に蹴られた」ことに怒って、いざごになります。保育者に仲直りを任された2人はきつかけをつかめずにいましたが、たまたま小石を投げたK太の腕が、M樹の頭につづかります。驚いたM樹はK太を見たあと、頭を叩きました。

皆さんなら、このあとどうなると思いますか？ 再びいざごになると予想する方が多いのではないのでしょうか。しかし、K太とM樹は、予想を見事に裏切ってくれました。腕が頭につづかり、叩き返したことがきっかけとなって、一度は睨み合いながらも笑いへと転換してしまっただけです。これは、仲良しのK太とM樹の間だからこそ可能だったと考えられます。その後、4歳女児をカン

仲直りの方略は叩くこと。

2人で肩を組んで保育者のところへ行き、M樹が先生、仲直りできました。K太が俺をパンチして、俺がK太をパンチして、ワッハッハッハッてと報告し、つれづれに走って行く。

(注) 赤字はふざげ行動を示し、青字は着目すべき箇所を示します。

4歳女児 近くの水道に近づき、手を洗い始める。

M樹 女児の後ろに立ち、カンチヨウしてふざけて笑う。

4歳女児 不機嫌そうな顔で、M樹を見る。

M樹 アカンへの顔をして、K太と笑う。

K太・M樹 互いの頭を叩きながら「痛いよー!」「痛いよー!」「痛いよー!」と言いつつ、2人で声を合わせて「痛いよー!」「ハッ」と笑いつつ。